

① 提案 (テーマ) 玉城町の小中学生が作った「初級玉城検定」 English Version ～玉城町を英語で発信～	② 学校・グループ名 玉城町立玉城中学校・第3学年英語係
	③ 名前 “Tamaki E-Girls”
	(Blank space for additional information)

④ 提案の理由

前期の英語係はせっかく英語大好きメンバーが集まったので、何か私たちが英語を通してみんなの役に立つことはないかと考え、毎年玉城町の小中学生が玉城町民の一人として学校で受検する「玉城検定」を英語に訳して、英語を習い始めた小学生や、玉城町に住む外国人にも「玉城検定」英語版を楽しんでもらいたいと思いました。自分たちの住む地域に誇りを持ち、玉城町ことをより多くの人に知ってもらい、さまざまな国の人とつながりを持ちたいと考えています。また英語版の検定を通して、玉城町のことを知っている町内の小学生にもさらに英語の興味を持ってもらい、中学校でも楽しく英語を勉強したいと思ってもらえたらと考えました。

⑤ 取組内容

今年の教科係りの英語も、大の英語好きが集まりました。英語係りの仕事は毎時間の英語の授業の準備はもちろんです、学年で行われるスピーチコンテストの司会をしたり、英語の個人新聞のとりまとめや貼り出しをしたりもします。今回も自分たちがまとめ役となって、良いものを残していけるように、メンバーでたくさん話し合いながら進めていきました。

1、玉城検定を英語に直すために、私たちが実際に取り組んだこと

1回目…英語係りとして町のためにできることを考える

2、3回目…2年生の時に全校生でやった「玉城検定」をもう一度チェックする。「玉城検定」とは玉城町の小中学生から玉城町についてのクイズを募ってできたご当地検定である。その英語版があれば、もっと玉城町のことが発信できると考え、実現に向けて話し合う。

4回目…英語の時間にその「初級玉城検定」にある50の問題を3年生全員が協力して英語に訳す計画を立てる。話し合う。実際の授業でどう生徒を動かしていくのか進め方を作成する。

5回目…E-girlsによる授業



- ・ E-girls が趣旨を説明
 - ・ 各クラス32 (33) 名なので、50問のうち、32問を一人ひとりが責任を持って英語にする。
 - ・ 4人班になって、班のメンバーの中でチェックしあう。
 - ・ できた文は、ALTの先生にチェックを受ける。
 - ・ チェックで合格し早くできた班から、残っている問題にチャレンジする。
- (準備物：玉城検定、ワークシート、辞書)



6回目…各クラスで取り組んだ成果を出し合い、

E-girls がまとめる。

- ・難しくできなかった5問に関してどうするかを話し合う。
- ・全体に呼びかけて挑戦してくれる人を募ることにする。



7回目…挑戦してもらった文をALTの先生にチェック

してもらい、50問が出そろろう。

- ・玉城検定英語版としての体裁を考える。
- ・レイアウトやイラストを考える。イラストは各クラスのイラストが得意な人が協力してくれる。



完成!



II、今後、どう生かしていくかをE-girlsでまとめる。

8回目…3年生の英語の時間にやってみる。

- ・どんなところで使うかを各クラスで話し合う。

⑥ 取組の成果（期待される効果）

辞書を使ったり、ALTの先生に直してもらったりしながら、3年生全員で取り組むことができました。一人では不可能なことも大勢で取り組めば実現することを実感できました。なにより自分たちの町のことを英語で説明できたり、プレゼンしたりできるという自信ができました。外国の人と接する機会があれば、自分のふるさとのことを紹介できる英文が自信を持って言えるようになりました。まず10月の文化祭では、来てもらった人にトライしてもらえるように受付に置いてもらいます。また町内の小学生にもチャレンジしてもらい、もっと英語に興味を持ってもらってワクワクしてもらいたいです。観光案内所のようなところにも置いてもらって、外国の人たちにも楽しんでもらいたいです。日本語版と一緒にぜひみなさんもトライしてみてください。